



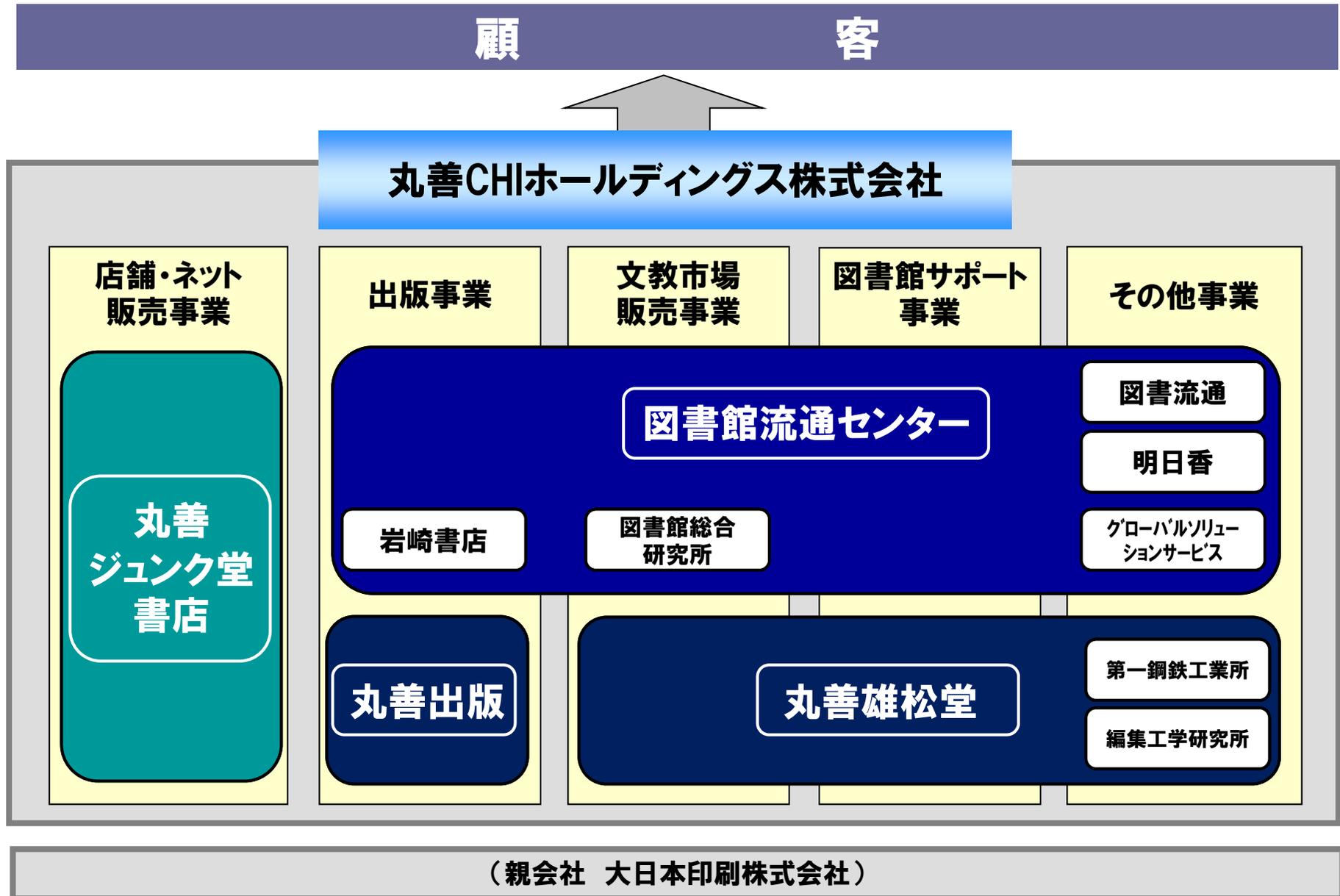
平成30年1月期 決算発表ご説明資料

(当社第8期 平成29年2月1日～平成30年1月31日)

丸善CHIホールディングス株式会社

平成30年3月15日

1. 当社の体制図



2. 当期・平成30年1月期 業績サマリー・計画比

- 当期売上高は、店舗・ネット販売事業および、その他事業のうちの店舗内装事業において、出版流通全体の厳しい市場環境の影響が想定以上であったことから、図書館サポート事業等が堅調に推移したものの、期初予想に対しわずかに未達(▲0.9%)となった。
- 上記の通り減収ではあったが、文教市場販売事業、店舗・ネット販売事業において原価、販管費のコスト削減に努めた結果、営業利益は約5千万円(+2.3%)、経常利益は約2.5億円(+12.8%)期初予想を上回る結果となった。
- 当期特別損失において、店舗・ネット販売事業で計上する資産除去債務について、近年の撤退費用発生実績等から見積りの変更行い、また現在の業績状況を踏まえ同事業での将来収益を保守的に見直したことなどから、約18億円の減損損失が発生した。その結果、親会社株主に帰属する当期純損益は3.2億円の損失計上となり、期初予想から約12億円の乖離となった。

◆平成29年2月1日～平成30年1月31日

(単位:百万円)

【平成30年1月期】	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
業績予想値 (平成29年3月16日発表)	180,000	2,250	2,000	900
実績(本日発表)	178,349	2,301	2,255	△321
対業績予想 増減	△1,651	51	255	△1,221
対業績予想 比率	99.1%	102.3%	112.8%	-%

2. 当期・平成30年1月期 業績サマリー・前年比

- 売上高:図書館サポート事業において増収となったが、店舗・ネット販売事業をはじめとする出版流通事業の領域では、総じて厳しい市場環境が継続し、売上高はほぼ前年並み(前年比▲0.03%)となった。
- 営業利益:文教市場販売事業において、大学向け販売事業で原価および販管費が改善され、店舗・ネット販売事業においても販管費の削減に努めた結果、前年比+2.7億円(+13.2%)の増益となった。
- しかしながら、親会社株主に帰属する当期純利益は、前ページ記載の理由から減損損失が前年から大幅に増加し、8.6億円の減益となった。

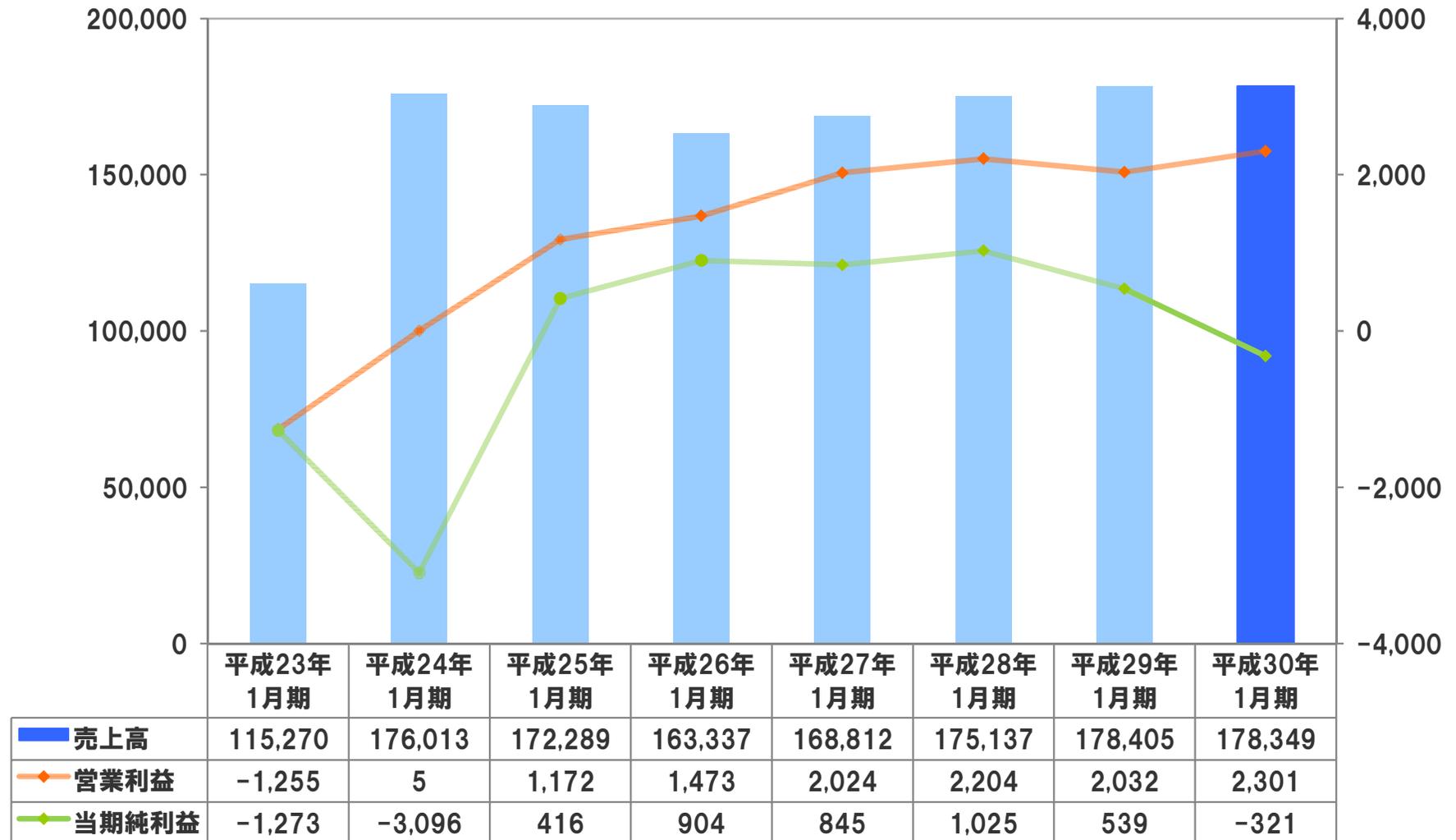
◆平成29年2月1日～平成30年1月31日 前年同期比

(単位:百万円)

【平成30年1月期】	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
前年同期実績 (平成29年1月期)	178,405	2,032	2,013	539
当期実績 (平成30年1月期)	178,349	2,301	2,255	△321
対前年同期 増減	△56	268	241	△860
対前年同期 比率	99.97%	113.2%	112.0%	—%

2. 業績サマリー 推移表(連結)

(単位:百万円)



3. 当期・平成30年1月期のセグメント損益(連結)

◆平成29年2月1日～平成30年1月31日

(単位:百万円)

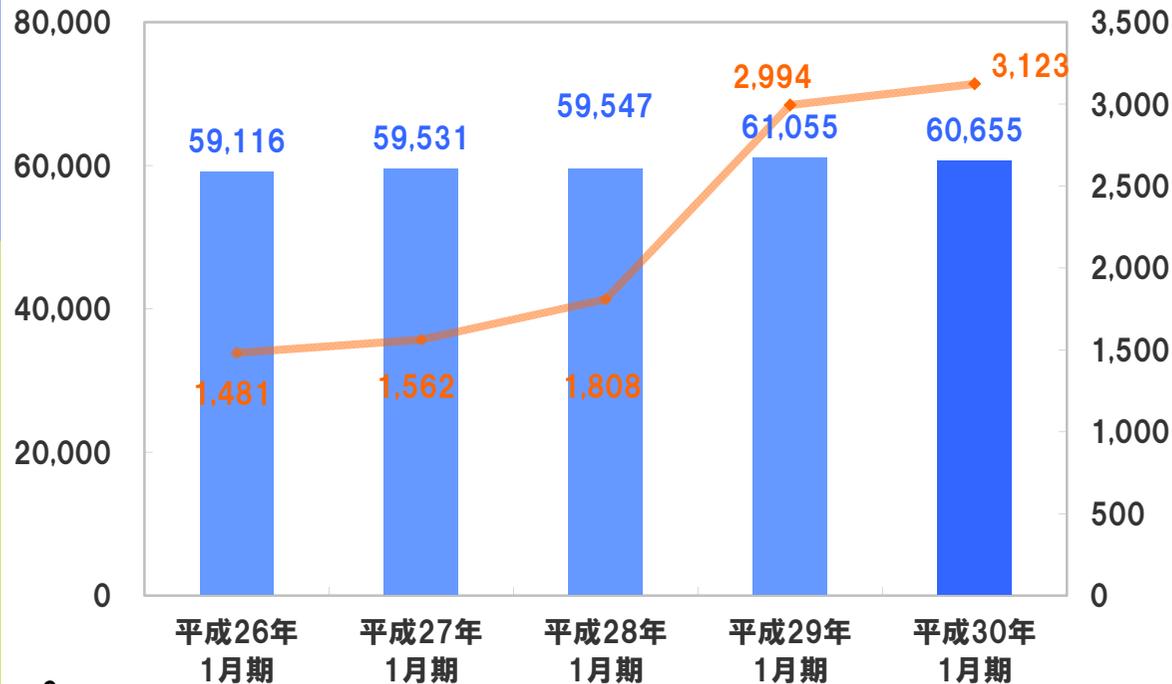
連結	売上高			営業利益		
	当期	前期	対前比	当期	前期	対前比
文教市場販売事業	60,655	61,055	99.3%	3,123	2,994	104.3%
店舗・ネット販売事業	75,683	76,382	99.1%	△326	△978	---
図書館サポート事業	25,155	22,801	110.3%	1,628	1,935	84.1%
出版事業	4,318	4,467	96.7%	40	160	25.2%
その他事業	12,535	13,698	91.5%	379	518	73.2%
消去又は全社	---	---	---	△2,543	△2,597	---
合計	178,349	178,405	99.97%	2,301	2,032	113.2%

4. 主要事業 ①文教市場販売事業

(単位:百万円)

	売上高	営業利益
平成30年 1月期	60,655	3,123
対前比	△399 (99.3%)	129 (104.3%)

■売上高 ▲営業利益



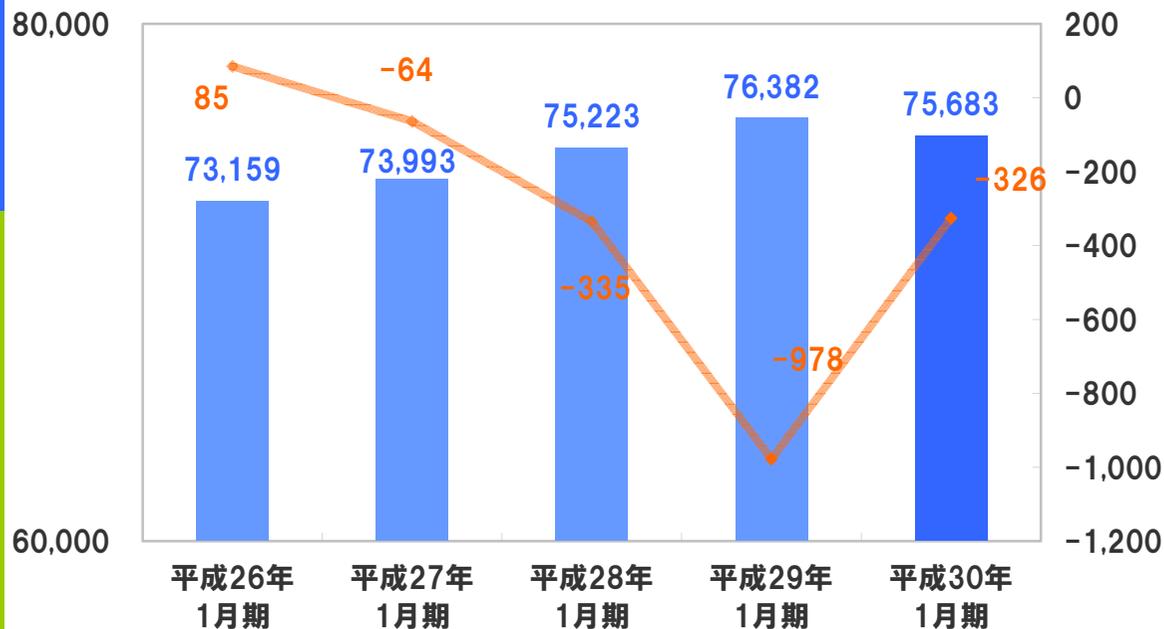
- 当セグメントの書籍売上は公共図書館向け、大学向けともに厳しく推移した。図書館業務機器や電子書籍関連は伸長したものの、セグメント全体の売上高は前年比▲0.7%となった。
- 大学向け教育研究設備事業で原価率が前年比改善され、その他販管費の減少もあり、営業利益は前年比+4.3%の増益となった。

4. 主要事業 ②店舗・ネット販売事業

(単位:百万円)

	売上高	営業利益
平成30年 1月期	75,683	△326
対前比	△699 (99.1%)	651 (---)

■ 売上高 ▲ 営業利益

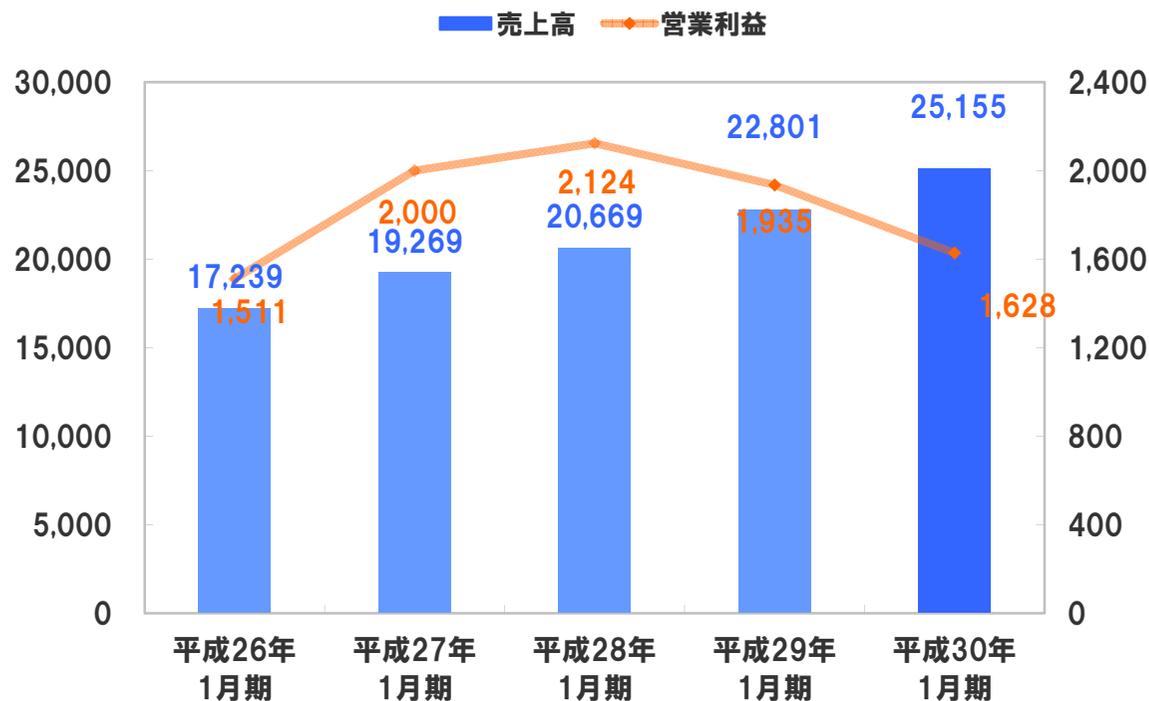


- 依然として市場環境の厳しさの影響を受け、売上高は前年比約7億円の減収となった。
- 営業利益は、効率的な人員配置や、新規出店が前年より少なかったことで出店時初期費用が前年から削減されたことなどで販管費削減が進み、前年比約6.5億円の増益となったが、利益計上には至らなかった。
- 平成30年1月末時点における店舗数は「MARUZEN」「ジュンク堂書店」ブランド以外の店舗名を含め、93店舗となっている。

4. 主要事業 ③図書館サポート事業

(単位:百万円)

	売上高	営業利益
平成30年 1月期	25,155	1,628
対前比	2,353 (110.3%)	△306 (84.1%)

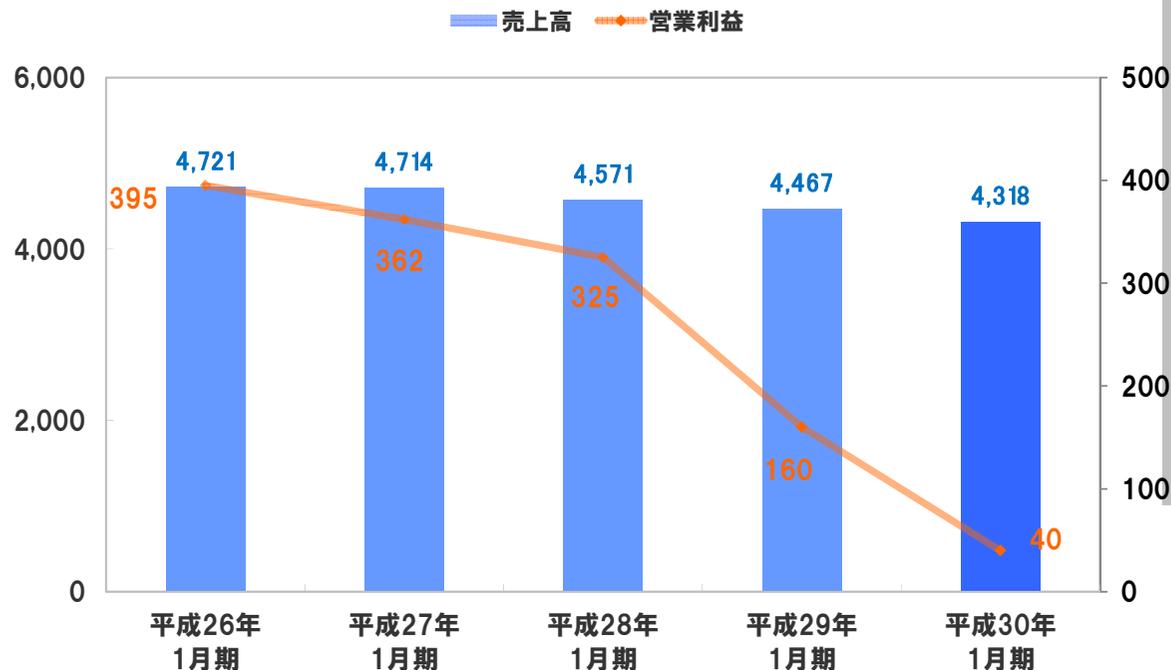


- 図書館受託館数の増加により、売上高は前年比+10.3%の増収となった。
- 営業利益は、新規受託館の準備費用の発生や安定的な人材確保のための人件費関連コストの増加もあり、前年比△15.9%の減益となった。
- 大学図書館・公共図書館等合計の受託館数は、小規模な案件も含め、期初1,206館から159館増加し、期末受託館数は合計1,365館となった。

4. 主要事業 ④出版事業

(単位:百万円)

	売上高	営業利益
平成30年 1月期	4,318	40
対前比	△148 (96.7%)	△119 (25.2%)

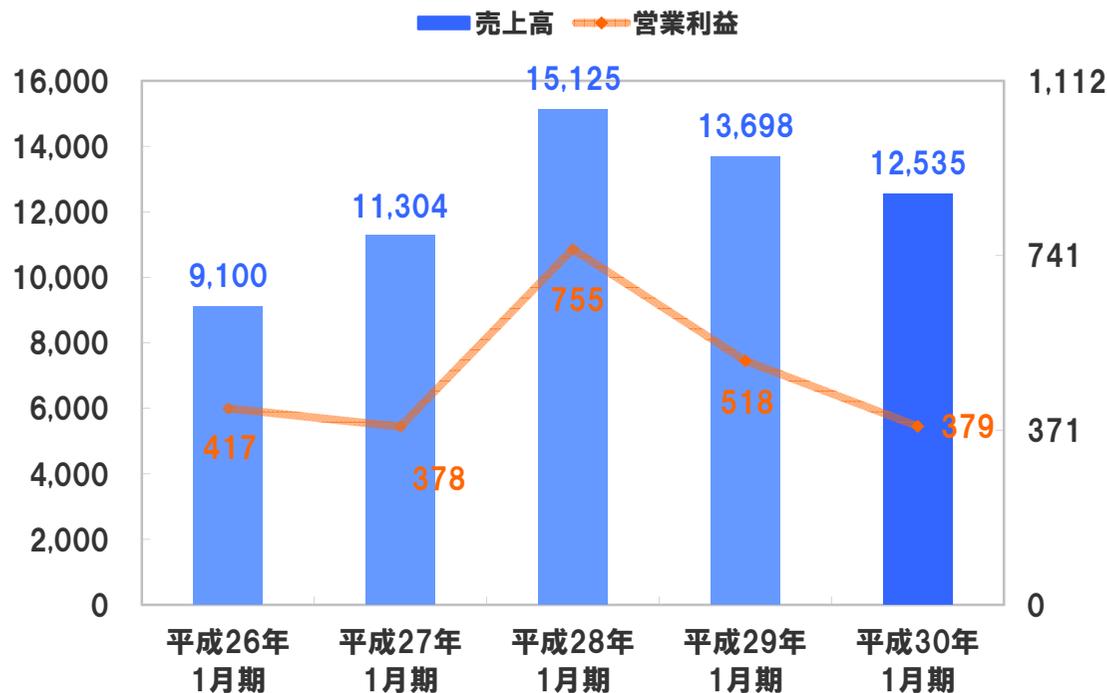


- 新刊刊行数が前年比減少したことや、専門書系の映像メディア商品の苦戦が継続して、売上高は前年比△3.3%の減収となった。
- 営業利益は、児童書分野では増益となったものの、減収の影響や売上原価の増加により前年比△74.8%の減益となった。
- 当期は、児童書分野及び専門書分野をあわせて、245点の新刊を刊行した(前年297点)。

4. 主要事業 ⑤その他事業

(単位:百万円)

	売上高	営業利益
平成30年 1月期	12,535	379
対前比	△1,162 (91.5%)	△138 (73.2%)



- 総合保育サービスの(株)明日香(TRC子会社)は順調に業績を伸ばした。
- 一方、当セグメントで最も大きな売上を占める店舗内装業(丸善雄松堂)では、顧客の出店抑制等により、厳しい業績となった
- これらにより、当セグメントの売上高は前年比△8.5%、営業利益は前年比△26.8%と、減収減益となった。

5. 来期・平成31年1月期(当社第9期)業績予想

- 平成31年1月期は、店舗事業の収益力強化に向けて、改装による売り場づくりの見直し、書籍流通倉庫活用による品ぞろえや提案力の向上、店舗マネジメント力の強化、さらには店舗の複合化や多角化に注力してまいります。
- また、文教市場、図書館サポート事業では、生涯に亘り学び続けることができる社会への貢献とその核となる図書館を中心とした地域活性化による市場開拓を目指し、生涯学習やリカレント(継続)教育への取り組み、地域の暮らしと文化をより豊かにするサービス提供やコミュニティ活動支援、書籍を活用した学びのコンテンツ作りなどを推進し、これまでの大学、公共図書館への事業に新たな付加価値を創造し、事業モデルの確立に取り組んでまいります。
- 売上高については、収益性の低い事業の見直し等により減収になりますが、上記の取り組みにより、営業利益、経常利益は増益を見込み、さらに平成30年1月期は減損損失の計上があったため、平成31年1月期の親会社株主に帰属する当期純利益については大幅な増益を見込んでおります。

(単位:百万円)

【平成31年1月期予想】	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
通期業績予想	175,000	2,500	2,400	1,200
当期実績(通期)との比較	-3,349 98.1%	+199 108.6%	+145 106.4%	+1,521 ---
[平成30年1月期通期実績]	178,349	2,301	2,255	▲ 321

ご参考資料

当期のトピックス

4月	丸善雄松堂が書籍、家具、一部内装工事、図書館運営を受託し、編集工学研究所が独自の図書分類によって作り上げた図書館「BIBLIOTHEATER」を含む、近畿大学「ACADEMIC THEATER」がオープン
4月	丸善出版、教育機関向け医学・看護系DVDコンテンツの動画配信サービス「Educational Video Online」をスタート
6月	丸善雄松堂、桶川市、新都市ライフHDと共に埼玉県内複数博物館の協力で地元埼玉の魅力を発信する連続講座をOKEGAWA honプラスで開催
8月	図書館流通センター、新刊図書の書誌情報をオープンデータとして公開開始。
10月	編集工学研究所と理化学研究所の「科学道100冊」フェアのジュニア版スタート。
10月	丸善雄松堂が1974年設立の日本で唯一の愛書家の集い「グロリアクラブ」を約2年ぶりに再開。
11月	図書館流通センターが受託する大和市文化創造拠点「シリウス」(2016年11月オープン)で累計来館者数が300万人を突破
11月	手塚治虫誕生90周年を記念して、丸善ジュンク堂書店と株式会社手塚プロダクションが提携し、オンデマンド出版による「手塚治虫全集」(手塚プロダクション発行、丸善ジュンク堂書店発売)全343巻の刊行開始(2023年まで)
12月	丸善雄松堂、電子教科書・教材配信サービス「Maruzen eText Service®」において、新たなプラットフォーム「アクトラン」(ActLearn®)を導入し、サービス提供を開始

新規出店・リニューアル店舗

4月	「ジュンク堂書店大分店」再オープン(約400坪、蔵書数約40万冊)
6月	「ジュンク堂書店吉祥寺店」に文具売場(20坪)をオープン
6月	「ジュンク堂書店姫路店」に文具売場(15坪)をオープン
8月	都内最大級の文具専門店「丸善池袋店」オープン(約400坪、65,000点)、丸善ジュンク堂書店初、ゼロから自社でプロデュースしたブック&ステーションリーカフェ「ほんのひととき」(70坪)を併設
10月	「丸善横浜みなとみらい店」オープン(約300坪、蔵書数約30万冊)
10月	「ジュンク堂書店秋田店」再オープン(約500坪、蔵書数約50万冊)
10月	丸善 丸の内本店 3階にブックカフェ「cafe1869 by MARUZEN」がオープン



MARUZEN CHI
Holdings

本資料には、当社および当社グループの将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれています。

これらの記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断した予測であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があります。